

1 年 A 組 英語科指導案

指導者 柳瀬 昭夫

1 日 時 平成 23 年 2 月 23 日 (水) 第 5 校時 13:40~14:30

2 単元名 Unit 11 それぞれのお正月 (NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1)

- 3 単元の目標
- ・登場人物がおこなった「事実」を、時間の流れを踏まえて教科書本文から読み取ることができる。(理解)
 - ・本文を参考にして、先週末の日記や手紙、メールを書くことができる。(表現)
 - ・規則動詞及び不規則動詞の過去形(過去時制)を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。(言語)
 - ・何をしたかについてたずねたり、それに答える活動に積極的に参加することができる。(関心・意欲・態度)

4 本単元における生徒の実態と単元構想

(1) 研修テーマに迫る手立て

本校の研修テーマ「じっくり考え 表現できる子」の具体的な姿として、中学 3 年生では、

- ①より確かな根拠や裏付けのある考えをもつ。
 - ②適切な方法や言葉を選び、自分の考えや意図を伝える。
 - ③交流したことを生かし、理由や根拠をはっきりさせて、論理的に表現する。
- の 3 点を設定している。

そこで、静岡県版カリキュラム「中学卒業時までにつけておきたい力」に示されている、期待される姿を、本校の研修テーマに照らし合わせ、以下のように押さえている。

「じっくり考え」… ・自分なりの意見や考えをもとうとする

- ・必要な情報や客観的な自己理解を助けるための情報収集ができる
- ・相手の伝える情報が、大体どういう話題、内容かわかる

「表現できる子」… ・英語で話したり、書いたりして、簡単な自己紹介ができる

- ・簡単な表現を用いて、相手との情報交換ができる

本単元では、カナダ旅行してきた Emi, Shin, Judy と、初めてのお正月を日本で過ごしたグリーン先生の過ごし方について、それぞれ手紙文、叙述文によって紹介されている。本文の中では、単におこなった事実が述べられているだけでなく、Multi Plus2 (p.78-79) で学習した、一日の主な行動を紹介する文章も用いられている。そこで、それらの表現もつけ加え、日記調で一日を振り返り、表現する活動が有効であると考える。また、仲間の日記を相互に読み合い、分からないことや質問したいことなど、英文による Q & A を双方向でおこなう活動を取り入れ、interactive なやりとりの中で相互理解をより深められる活動にしていく。そして、最終的には海外の中学生とメールによるやりとりをおこなっていききたい。

以上のことから、過去時制を用いて、英語で日記をつけることに主眼を置いて指導していきたいと考えている。過去時制は、過去の動作・状態・習慣などを現在と関係なく述べるときに用いる時制で、動詞の過去形で表されているが、通常、単純過去形を使用する時は、話している内容が話している時より過去に起こったことであると明確に述べるために、以下のような時間付加詞や、時をあらわす副詞節などとともに用いられることが多い。

a year / two weeks / five minutes / etc. ago

at two o'clock / half past three, etc.

earlier today / this month, etc.

in the spring / summer, etc.

last night / week / month / year, etc.

on Monday / Wednesday, etc.

the other day / week

yesterday

Ronald Carter and Michael McCarthy, (CAMBRIDGE GRAMMAR OF ENGLISH, 2006)

そこで、規則動詞を用いた過去形の文章について指導する際、… ago と、last …について押さえ、過去のどの時点の事柄について述べているのか、明確にできるようにしていく。

また、海外にメールを出すことから、英文でのメールの書き方(文の書き出し、締めくくり方などの format)について指導する必要がある。

(2) 本単元における生徒の実態と願う姿

1年A組は全体的に明るく元気で素直な生徒が多い。授業に対しても活発で反応も良く、英語に対する興味関心は高い。しかし、教育課程部会「これまでの審議のまとめ」(平成19年11月)でも、現行の英語教育を見直した結果として、『中学校・高等学校を通じて、コミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力が十分身に付いていない、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力が十分身に付いていない状況なども見られる。』などといった課題であげられているように、本校の1年生の生徒たちの中にも、単文における語順などのマクロストラクチャーを体得できず、日本語を前から逐語訳するように英文を構成してしまう生徒がいる。

そこで、有益な表現が多く含まれた生の言語データの集まりである教科書の扱い方を、以下の2点に配慮して活用していくことで、自分の言いたいことを教科書の表現を参考にして自分の言葉で言えるようになってくるのではないかと考える。

①言語習得の過程(音→文字→語句→文)を大切にしながら本文を扱うことで、本文を表す絵を見ただけで、本文の **reproduction**(再生・再話)ができるようにする。これによって、マクロストラクチャーを体得させる。

②教科書本文を理解したところで学習を終わらせず、教科書の内容を実際の世の中で起こっている内容に発展させ、**creative**に表現させることで、基本文を発展した形で表現する機会を保証する。

具体的には、教科書本文で示されている「初めての日本でのお正月におこなったこと」を「先週末におこなったこと」に置き換え、日記文を作成する活動をおこなっていく。この活動により、本研修で目指す、「じっくり考え表現できる子」の具体的な姿として示されている「適切な方法や言葉を選び、自分の考えや意図を伝える」ことができるための素地を作ることができるのではないかと考える。

5 指導計画(7時間扱い)

時数	目 標 お よ び 活 動 内 容
1	○「昨日自分がしたこと」について説明したり、聞き取ったことを書きあらわす活動を通して、過去時制の文を用いて単文を述べたり、書いたりする。(表現) ・教師による口頭での導入を聞いて、おこなったことを聞き取る listening 活動 ・友達が説明した行動を英文で書く writing 活動
2	○それぞれのお正月(p92)の再生活動を元に、手紙文の format 及び内容について理解する。(言語・文化)(理解) ・ピクチャーカードと教師の口頭での導入をもとに、本文の概要をつかむ listening 活動 ・本文を読んで、 T-FQuestions や Q&A に答える reading 活動 ・絵を見て、本文の内容を口頭で表現する speaking 活動
3	○ Multi Plus2 (p.78-79)の表現を昨日の自分に当てはめて表現する活動を通して、不規則動詞の過去時制の文を用いて説明することができる。(言語・文化) ・教師による口頭での導入を聞く listening 活動 ・昨日の自分の行動を、不規則動詞の過去時制を用いて相手に説明する speaking 活動
4 (本時)	○それぞれのお正月(p94)の再生活動と Multi Plus2 の表現を元に、先週末の日記を書く。(表現) ・ピクチャーカードと教師の口頭での導入をもとに、本文の概要をつかむ listening 活動 ・本文を読んで、 T-FQuestions や Q&A に答える reading 活動 ・絵を見て、本文の内容を口頭で表現する speaking 活動 ・先週末の自分の行動を、日記形式で書く writing 活動
5	○友達の日記を読んで、内容について質問したり、応答したりする活動を通して、過去時制の疑問文を用いてやりとりする。(言語・文化) ・友達の日記を読んで質問文を書いたり、返事を書いたりする reading / writing 活動
6	○それぞれのお正月(p95)の再生活動を元に、犯人探しゲームをおこなう。(表現) ・ピクチャーカードと教師の口頭での導入をもとに、本文の概要をつかむ listening 活動 ・本文を読んで、 T-FQuestions や Q&A に答える reading 活動 ・絵を見て、本文の内容を口頭で表現する speaking 活動 ・昨夜の相手の行動について質問したり、自分の行動を説明したりしながら、犯人を見つけ出す speaking 活動
7	○海外の中学生にメールを送る。(表現) ・手紙(メール文)の書き出し方、締めくくり方について確認後、自己紹介と相手への質問を含めてメールを作成する writing 活動

6 本時の授業

(1) 本時の目標

- ・それぞれのお正月(p94)の再生活動と Multi Plus2 の表現を参考にして、「先週末にあったできごと」についての日記を作成する。(表現)

(2) 着目生徒について

本時の授業では、先週末のできごとについて日記文を書く活動をおこなう。着目生徒☆Aさんは、普段は明るく元気があり、英語も好きであるが、1月の県学力調査における自由英作文（英語での紹介を読んで、英語で4つ質問をしなさい）において、8点満点中0点という結果であった。これは、上記のように単文におけるマクロストラクチャーを体得できていないからである。しかし、授業や家庭学習に対する取組は前向きで、Unit10の教科書理解後の発展表現学習では、友だちと積極的にかかわりながらやりとりするなど、日本語で思いついた難解な文章でなく、自分が使える既知の表現から自分の言いたいことを述べようとする姿勢は身についている。☆Aさんにとって必要なものは、文章を構成するときに参考となる正しい英文である。そこで、日記を書く活動であまり文法に注意を向けなくても、語彙さえわかれば文章が書けるように、教科書本文の再話をおこなおうと考える。また、☆Aさんはグループ活動でも比較的発言が多い。わからないことに対する不理解表明も仲間とのやりとりの中できちんとできるので、グループで相互に支援しながら表現できるようになることを期待している。

授業ではまず、教科書本文を口頭で導入する。生徒は教科書を閉じたままにさせておき、黒板の picture card と key word をもとに、概略をつかませる。その際、分かりにくい表現や文章は、paraphrase して理解を図る。教師による導入の後、口頭で内容に関する Q & A を行う。質問は、まずは日本語で概略を問い、少しずつ本文の repeat をさせていく。概要をつかませながら徐々に本文の読みを練習した後、flash card で新出語(句)について確認する。ここで初めて、文字による情報を提示することになるので、音声と文字のつながりを意識させて練習を行う。新出語については全員1回は読ませるようにする。☆Aさんが、他の人の発話を参考にできるように最初に窓側の生徒から順番に指名して発話練習をおこなうようにしていきたい。次に、一文ずつの repeat をおこなっていく。長い文章では、一度に repeat させることは困難なので、backward 方式で徐々に練習をしていく必要がある。例えば、本文にある文章でもある

At night I went to the shrine with Ms. Sato, the English teacher.は、

① with Ms. Sato, the English teacher, ② went to the shrine with Ms. Sato, the English teacher, ③ At night I went to the shrine with Ms. Sato, the English teacher … などのように、文末に少しずつ英文を付け足していく形で練習をおこなって、表現できるようにしていく。☆Aさんは、自信がなかったり練習が不十分なとき、はっきりと教師に伝えてくれることが多いので、生徒の様子をよく見ながら、必要な練習をおこなっていききたい。

十分に内容に関する理解ができてから、教科書を開本し、chorus reading をおこなう。そして、本文を一文ずつ覚えてから、前を見て発話する read and look up を行う。この時、意味のまとまりを考えながら、十分な声量で発話するよう指示し、読むときには教科書を見ないようにさせる。その後で individual reading を行う。この段階で、☆Aさんがきちんと本文 reading できていないようであれば、練習が不十分であると判断し、再度 chorus reading をおこなう。

続いて、本文のストーリーを自分の言葉で表現していく、再話を行う。ヒントがないとストーリーの流れを思い出すことができないので、黒板には、picture card と key word を残しておき、それらを見て再話するようにさせる。これにより、教科書本文の音読を通して取り入れられた語彙や構文などの知識を、使える知識として定着させていくことを図っていく。☆Aさんのいる Group7 は、再話できるまで比較的短時間でたどり着くことができる生徒が数名いるので、自分が再話できる自信が持てたところで、グループ内の友達のサポートをするように全体に指示していきたい。ある程度再話できる自信がもてたら、隣の人にストーリーを説明するようにする。自分の言葉で伝え、分かってもらえた時の達成感を味わわせたい。

最後に、「週末に自分がおこなったこと」についての日記作成に取り組ませるが、語彙については仲間同士や辞書でフォローさせ、文章をどう作成していったらよいかを互いに確認させながら、取り組ませていきたい。最後には、再話で増やした自分たちの表現力を活用して日記が完成でき、達成感を感じることができるとよいと考える。

(3) 本時の展開

段階	Learning Activity	学習活動	○支援☆着目生徒について ■評価
つかむ	1 Greetings & Short Talk	QAAQ Activity ○コミュニケーションパートナーと2分間、英語だけで対話を継続させる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が興味をもてる初発の質問を準備する。 質問に関連して話を発展させる。
	2 Confirmation of Learning Task	先週末の出来事について、日記を書こう 何を参考にして、日記を書いたらよいのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> そのままでは書けそうもないと感じる生徒もいるはずなので、今日の学習の流れを示しておく。
	3 Oral Practice & Understanding the content	Presentation of the Textbook & Mim-Mem ○教科書を閉じて、黒板の picture card と key word をもとに本文の内容を説明する。 ○CDで本文の listening を行う。 ○一文ずつ本文の repeat を行う。 Check of Comprehension(Q&A) ○教科書を閉じたまま、本文の概要に関するQ&Aを行う。 ○flash card で新出語(句)を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○new words は、カードで意味を確認していく。 ○分かりにくい文章は、言い換えをして理解を図る。 ○長くて言いにくい文は backward reading で行う。 ・Q&Aでは、本文の表現を答えさせるような質問を用意しておく。
	4 Reading	Reading ○chorus reading を行う。 ○一文ずつ本文を覚えてから前を見て発話する、read and look up を行う。 ○individual reading を行う。 Reproduction ○教科書を閉じたまま、本文を再話する。 ○ペアでお互いに再話し、相互評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・read and look up では、意味のまとまりを考え、十分な声量で発話するよう指示する。 ☆理解できているか表情を確認する。 ・response reading では教科書を閉本させておく。 ○ペア活動で、理解が不十分な場所を互いに支援させる。
交流する	5 Consolidation	Let's Write Up! ○先週末にあったできごとについて、Multi Plus2 の表現も取り入れながら、日記を作成する。 ○まずはそれぞれで取り組み、作成した文章について正しく表現できているか確認させる。 ○次時に友達に読んでもらうため、難解語を多用していないかグループで確認させる。	<ul style="list-style-type: none"> ☆同グループのBさんと一緒に語彙を確認させたり、本文から有効な表現を確認させたりすることで、積極的に日記づくりに取り組ませる。 ○難解な語を多用させない。 ■教科書本文を参考にして、先週末のできごとについて、英語で表現している。(表現) ＜ワークシートの記述＞
振り返る	6 Closing Message	Catching the Message ・教科書本文を参考に自分たちの力で表現することができたぞ ○各グループの良かった点について確認する。 ○振り返り用紙に記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で良かった点について伝える。 ・作成した日記は一度回収し、次時に利用していく。